

川の思い出

新藤

大輔

ぼくにとっての川の思い出は、二つあります。

一つ目は、栃木県に旅行に行って大雨の次の日に、鬼怒川でラフティングをしたことです。ラフティングをしようとして行ってみたら、とても流れが速くなっているのを知って、とてもびっくりしました。説明を聞いた後、実際にやってみたら、とてもスリッドが出て

いて、びっくりかに飛ばされてしまうかのように思っていました。かんばってボートをこいでいたら、途中で岩がゴツゴツあって、ぶつかりて、ボートがびっくりしてしまいうんじやないかと思っていました。途中で一回ストップして、サメートルとサメートルくらののかけから、川にとびこま遊びがあったので、ぼくは一番上のサメートルのところからとびこんだら、とても川の水が冷めたくて、体がまったりと動けなくなっていて、かっとなへし



おんこでいってしまいましたが、それなら、係のお兄さんがぼくの手を引っぱってくれました。もしあの時、お兄さんかいざりれば、ぼくの命は無かったですかもしれません。

二つ目は、とておそろいな川で、マズミという魚をつかと思ひ出です。お兄ちゃんといっちが先につれるが勝負しました。お兄ちゃんの方が先につりあげてしまいました。が、ぼくの方が大さきマスミをつることか出ましたので、うれしかったです。

たが、	はくは、
名ない	川にはい
こと	こと
もある	がある
人た	と思
なと思	い
い	まし
まし	し
た。	